東洋大学図書館ニュース

KOΣMOΣ

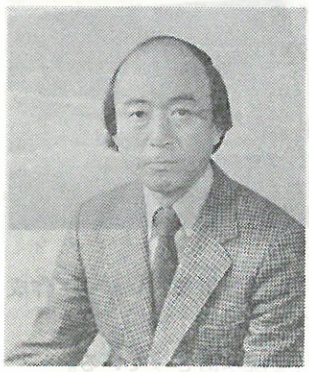
コスモス　1983　春　(No.61)

雑　感……1
ドキュメント
カウンター12時間30分……2
宇野脩平さんのこと……5
田中平次郎　工学部前分館長を悼む……6
雑誌係より……7
館内だより……8

巻頭言

雑　感

教学担当常務理事　山　崎　正　巳



正月にある席で話をする機会があった。数日後≪お前，面白い話をしたんだってな≫と友人がわたくしに言う。ところが，彼に伝わっているところは，わたくしがした話とは内容がすっかりずれてしまっている。わたくしの言いたかったことの一つはこういうことであった。――私立大学がばたばたと潰れている合衆国の例に俟つまでもなく，特色のない私大は今後の生存競争の中で生き残ることがむずかしいだろう，と元文部次官天城某氏も言っているが，成程その通りかも知れない。然らばわれわれは東洋大学の特色をどこに求めたら良いのだろうか。東洋大学は世界の大学の中で大変珍しいことに『哲学』を旗印に創設された大学である。特色を求めるとしたら，ここしかないのではないか。例えば，哲学に基づかない経済学（社会学……）はただ時流に流されるだけで，世の中を良くして行くのには余り役立たないであろう。さればこそ創設者井上円了は≪諸学の基礎は哲学にあり≫と説いたに違いあるまい。われわれは折角素敵な旗印の下に創設された大学に生きているのだから，≪哲学する≫こころを常に失わないでいたいものだ。≪哲学する≫，つまり正しく考える，≪注意深く速断と偏見を避けながら≫（これはわが天才デカルトが今から350年ほど前に俗語で，学問の言葉ラテン語ではなくフランス語で，われわれに教えてくれた大法則の一部である）ものごとを根本的に検討し，討論する習慣を身につけたいものである。（討論は自分を自分Aと自分Bに分ければ一人でもすることが出来る。）しかも，≪よく判断し，真なるものを偽なるものから分かつところの能力，これが本来良識または理性と名づけられるものだが，これはすべての人において生れつき相等しい≫のだ。（何とも心強い天才の保証ではないか。）考えて，考え合うこと，これが一見迂遠のようでいて，難問題を山と抱えた東洋大学を良くして行く一番の近道なのではないだろうか――というようなことであった。

図書館にも沢山の問題がある。これをどうするか。先ずは，専門家たちが広い視野に立って，深く智慧をこらしながら，5年先，10年先といったような近い将来を出来るだけ正確に見透して，東洋大学に相応しい，現実的な図書館像を作りあげること，これが先決なのではないだろうか。当り前のことを，地道に，一歩一歩。

ドキュメント

カウンター12時間30分

1月忙日の図書館

コスモス編集委員会

朝

開館準備：新聞展示，各種日付印の日付変更，複写機準備，ロッカー点検。

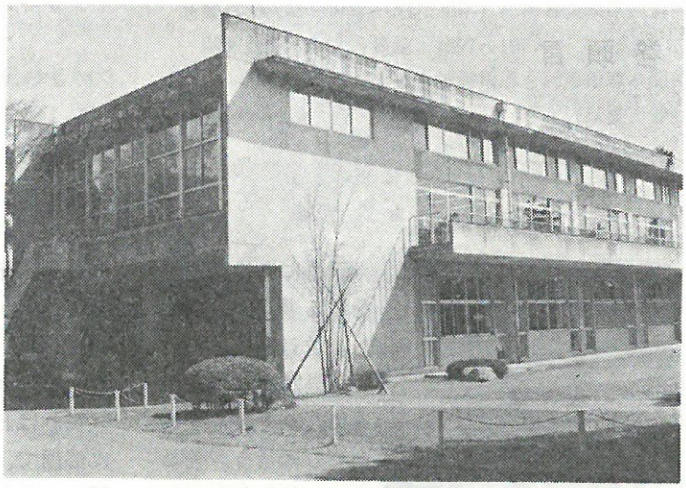
9：00　開館。既に11名の学生が待っていた。

9：10　工学部　カウンター業務開始。（爽やかにＥＧリスリング流れる。）

9：15　朝霞　　同　上

9：30　白山　　同　上

カウンター１番乗りは，法律学科３年生村山君。『最高裁判所民事判例集』を要求した。早くも工学部では，レポート用紙と電卓を片手に20数名の学生が閲覧室で，レポート作成に熱中！



工学部分館

朝霞では，常連の経営学科の黒沢君が閲覧室で民俗学関係の資料を読みあさっている。

10：02　白山　参考雑誌室の開架図書の点検終了。

10：30　前日のカウンター業務の統計を採り終る。

館外貸出　白　山　６８４冊。
　　朝　霞　１５１冊。
　　工学部　１８４冊。

10：48　白山　館外貸出カードを紛失したＡ君が再発行の手続にカウンターに来た。

11：10　朝霞　経済学科２年の小島君が創刊号から揃っている毎日新聞のマイクロフィルムの利用に来た。料金はＢ４で１枚25円。

11：15　白山　大学院の中村さんが，文献複写依頼で，参考係カウンターに来る。調査の結果，国内で所蔵している機関がないので，英国の BRITISH LIBRARY LENDING DIVISION に複写依頼を発注。

11：23　白山　英米文学科２年の山内君が購入希望した図書が利用できるようになったので，そのむね掲示する。

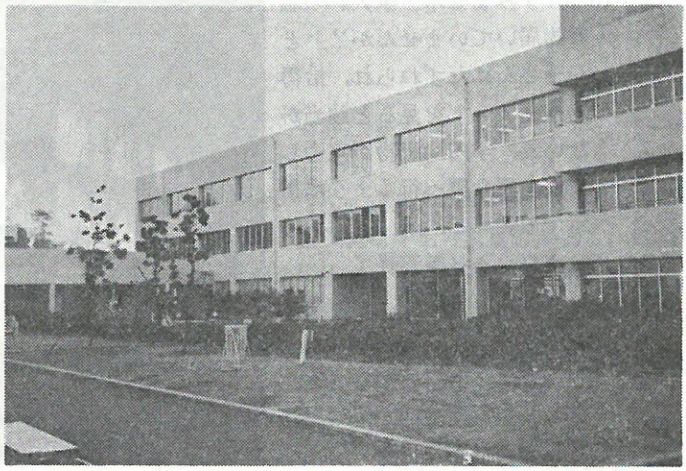
12：00まで　白山　入館者 1,250 名。図書館の資料を利用してグループ研究をする共同研究室の申込は，朝から６件。

昼

12：30　朝霞　278名の学生が入館している。

1：00まで　白山　昼休みの為，カウンターに学生が殺到しテンテコ舞。

工学部では，レポート作成学生の討議の声が熱し，再三注意を呼びかけなければならない。爽やかなＢＧＭも騒々しさにしっかりとかき消されている。



朝　霞　分　館

1：06　白山　自動複写機が，朝からの利用者殺到で，ついにトラブル発生！

1：30　朝霞では，台湾の留学生がニコニコと，図書館資料の相談にカウンターにやって来る。

1：40　白山　教育学科１年の鹿島君が，捜している資料が図書館にないため，参考係で，所蔵している大学に閲覧願を発行する。

2：00　朝霞に，白山から送られて来た本が搬入され，自力で３階の図書館まで運び上げる。

2：30　白山　他大学の学生が，図書館資料の閲覧に来る。

2：40　白山　視聴覚室に経済学科３年の大川君が東洋大学市民講座「80年代の日本経済」のカセットテープを聞きに来た。

2：50　情報工学科４年の河田君が白山図書館に図書の利用に来る。

3：00　白山　制服姿の志願者とおぼしき学生が，「出口はどこですか？」とたずねる。

3：13　白山　館外貸出カードを使いきった応用社会学科の市村さんに同カード No.2を発行する。

3：50　白山　国文学科３年の金子さんが，当館にない雑誌論文を要求したので，所蔵大学に文献複写を依頼する。

4：30　朝霞　閉館準備。

4：50　工学部　閉館準備。別れのＢＧＭを通す。

5：00　白山　昼間統計から夜間統計に切り換える。

夜

6：00　仕事を終えた二部の学生の背広姿が目立ち始める。

6：30　カウンターに「卒業生ですが，本を借りられますか？」と質問があり，「校友手続として，卒業証明書を 持参なさると 貸出カードを 発行致します。それで，３冊１ヶ月まで貸出できます。」と答える。

6：50　借りて行った本を紛失したＢ君が現物で弁償した。

7：10　短大の杉野さんが，源氏物語の注釈書を要求したが，貸出中だったので，次回貸出の予約手続をした。

8：00　返却された本を書庫の所定の位置に戻す作業に，忙殺される。

9：00　９時15分カウンター業務終了の予告を館内放送で流す。

9：10　「すみません！筆入れの忘れ物届いていませんか？」とC子さんにたずねられ，拾得物控えノートを見ると該当がない為，学内拾得物が集中している厚生課へ行くように指示する。

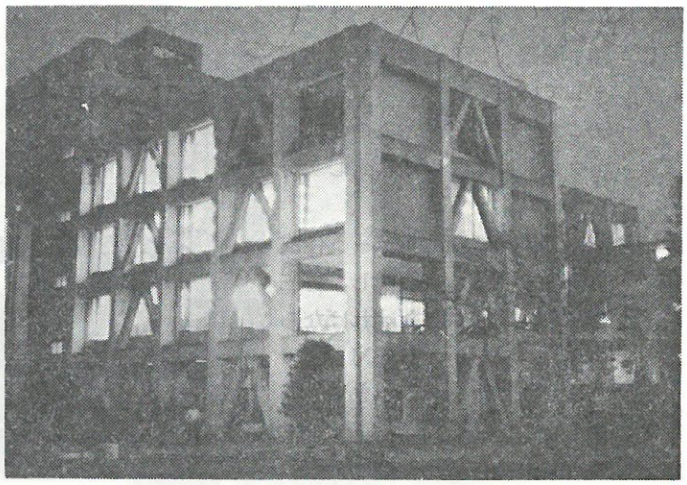
9：15　カウンター業務終了。

各閲覧室の整理，戸締り，ロッカー点検に入る。

期末テスト直前の為，依然として複写機の前に行列。

9：30　哲学科4年の佐々木君がゆっくりと出て行った。

閉館。



白山図書館

※　ここに出てくる個人名は架空です。

入館者数調査結果表　58. 1. 17実施

調査時間	白山	朝霞	川越	合計	調査時間	白山	朝霞	川越	合計
9：00〜10：00	271人	41人	93人	405人	16：00〜17：00	740人	56人	49人	845人
10：00〜11：00	507	392	98	997	17：00〜18：00	632	4	17:30 5	641
11：00〜12：00	472	343	202	1,017	18：00〜19：00	588			588
12：00〜13：00	970	360	260	1,590	19：00〜20：00	411			411
13：00〜14：00	841	300	185	1,326	20：00〜21：00	180			180
14：00〜15：00	845	230	141	1,216	21：00〜21：30	12			12
15：00〜16：00	567	89	149	805	計	7,036	1,815	1,182	10,033

ご存じですか

難読姓氏，読めますか？

日本人の姓氏の数は世界一多いと言われているが，その数は明らかでない。次にあげる難読姓氏のうち，あなたは幾つ読めますか。

一合戦—いちまかせ，八十八騎—とどろき，少女遊—たかなし，他人馬—よそうま，四月一日—わたぬき，幼中—まぼなか，当道—まさみち，西漢文—かわちのあやのふみ，言語同断—てくら，谷谷谷谷—たちかべやつや，男心—なじみ，雨厳—あまかざり，毒島—ぶすじま，和徳—やまと，奈良訳語—ならおさ，妻鳥—めんどり，東雲—しののめ，飛鳥—あすか，首村—かどむら，南界—そじ，春夏秋冬—ひととせ，海千山千—ふるて，将軍—いくさのきみ，魚屋—ととや，動橋—ゆるぎばし，都光—くにてる，楽楽熊—ささのくま，千万億—つもい，不動山—ゆするき，五百歳—いおれい，青天日—なばため

挙げればきりがありません。

（難読姓氏辞典：281.034：OS　日本の苗字：281.034：N　より）

宇野脩平さんのこと

元文学部教授　寶　月　圭　吾

思い起すと，宇野脩平さんとわたくしの交友関係は，随分長かった。従って彼についての追憶は数々ある。

終戦後間もない昭和23年の夏の頃であった。戦場から帰還してきたばかりの，稲垣泰彦（元東大教授，死去）・永原慶二（現一橋大学教授）・杉山博（現駒沢大学教授）等の諸君と，その頃まだ東大の学生であった網野善彦君を助手として，東寺領山城国久世上下庄（現在京都市南区）の現地を調査した。この調査に宇野さんが，特別に参加した。当時わたくしがいろいろお世話になっていた漁業史の大家である羽原又吉先生から，特に御紹介があったからである。先生は，「僕の弟子で，東洋大学の卒業生の宇野脩平という，若い優秀な学者がいる。一諸に連れていって呉れないか。」という御依頼があったのである。この時の彼の関心は，中世庄園における農民の身分的差別の問題にあったようである。これがわたくしと宇野さんと親交を持つに至った端緒である。

それから間もなく，宇野さんは，水産庁の漁業制度調査のための史料収集委員会の委員長になった。その仕事として，全国的な漁業史料の調査が宇野さんの企画で行われることになった。先年の「お返し」という意味があったためか，こんどはわたくしが招かれてそれに参加することになった。約一週間にわたり，宇野さんと一諸に，福岡・佐賀・長崎の三県の海岸地帯を歩き，そこに残っている近世の農漁村文書を見ることが出来た。中世史を専攻し，中世の古文書にしか接していなかったわたくしにとって，このように近世古文書を，じっくりと勉強する機会が与えられたことは，自分の研究視野を拡げる意味で，何より幸であった。その点で今も宇野さんに感謝している。

宇野さんとの交渉は，その後も続いた。昭和30年代になって，近世自治史料調査会という団体が組織され，調査地の一つに和歌山県粉河町が選ばれた。この町の出身である宇野さんは甚深な協力を惜まれなかった。ここには粉河寺領東村の王子神社文書という貴重な中世古文書群がある。この文書は保管が厳重であって，当時はその一部が公開されてはいたが，その全貌は未紹介の状況にあった。宇野さんは，神社側のみならず，氏子総代達も説得してくれ，そのお蔭で関係者全体の立ち合のもとで「開かずの古文書箱」の蓋があけられ，その全容に接することが出来たのである。その時の感激は今も忘れ得ない。それと同時に，ことをここまで運んでくれた彼の努力に感謝すると共に，故郷粉河の人達が，篤実な彼の人柄に寄せる信頼の深さに感じ入った次第である。

更にその後の宇野さんとの接触は，茨城県史の編集においてである。たしか昭和30年代の末頃かと思うが，わたくしはこの仕事に参加した。その頃宇野さんは近世史部会の責任者であり，わたくしは中世史部会を担当することとなった。そんなわけで，編集委員会では，再び彼と顔を合せる機会に恵まれたのである。

以上のような長い交友関係を通じて，彼が学者として歩いて来た道を考えてみると，迂余曲折があった。昭和20年代においては，上に述べたように，農民の身分制の問題に関心があった。また交通史の分野に足を踏み入れた時期もある。しかしその中心をなしていたのは，矢張りわが国の漁業史の究明であった。全国的な漁村関係史料の調査に激しい情熱を注ぎ，貴重な漁業関連史料集を学界に提供している。恩師羽原先生の学統を継ぎ，宇野さん自身の「日本漁業史」の完成を期待していたのは，わたくしばかりではなかった。しかるに昭和44年4月，まだ56歳の若さで，多数の友人に惜しまれながら，学者としてその生涯を閉じた。痛恨の極みである。その蔵書の一部が母校東洋大学に収められ，その目録が完成したいま，改めて宇野さんの在りし日を偲び，拙文を草した次第である。

田中平次郎 工学部前分館長を悼む

山路こえて

電気工学科講師　下村純武

昨年9月初め，先生と私ども研究室の総勢20数名は，伊豆稲取のセミナーハウスに出かけた。年中行事の“合宿ゼミ”である。海風の涼しい階下の和室で寛いだとき，先生は白皙のお顔に微笑を湛え，然し思い出を嚙みしめる様に談論された――中渋谷教会を通じて若き森有正と邂逅した頃のこと，文芸評論家佐古純一郎氏の知遇を得たこと，『パンセ』のこと，『西方の人』のこと……。そして学生共々，湯船に這入った折も，健啖だった先生の肉体に五衰の兆は感じられなかった。

先生が“慢性肝炎”の治療のために入院されたのは，旬日の米国出張から帰った直後の，10月19日のことであった。荻窪駅北口の教会通りを行き詰めた所にある総合病院で，この辺りの情景は，井伏鱒二が『荻窪風土記』に描いた当時と余り変っていない。

その後の先生の病状は，坂道を駆け下る如く私には思われた。然し先生は，蘇生の恩寵を恃まれたであろう。本誌58号で，“無人島での1冊の本”を問われて先生は，『旧新約聖書』を挙げ，「小生は，特にイエス・キリストの復活の生命の中に生きているため」と注記された。

拠無い用件でかけた私の電話に，力なく呂律も乱れがちに，「もうここまで来てしまったから」とだけ応えられた先生は，然しある学生の来訪の約束に対しては，今は疲れるから年が明けてからにしたいと言伝られたり，最期（12月13日）の2日前にお見舞いした私に，「今月が山です」と明瞭にお話しになったりしている。それらは，後進に対する労りの気持ばかりではなかったであろうと私は考えている。

先生は1965年以来，医用電子工学に関心を寄せられた。最近の研究は，“超音波を用いた生体内電子機器に対する信号及びエネルギの伝送方式”に関するものである。その研究方法は，「単なるヒューマニズムでなく」，「自分達の行為が人の救いにあづかることを電子工学の研究の面で果したいと念願」する（電気工学専門課程オリエンテーション資料，1982）ということであり，他方，工学研究は須らく需給のラージ・スケール上に位置付けて出発すべきものである，という主張とが軸を成している。ために“A Methodology for System Engineering” by A. D. Hall は，先生が1読を勧めた書物である。

先生が18年間に講ぜられた科目数は10指に及ぶが，学生の単位取得については十分に意を用いられた。例えば，追再試験は学習を強いることのできる機会であると解して，教室や事務担当者の異論にも拘らず，独自に実施された。

年明け早々の主なき新年コンパの席で，学生の誰かが，先生は我々を見守っていて下さい，仕事をやり続けますから，などと発言した。先生の無形の遺産は，現在の大衆化された大学教育に，何ごとかを反省させるのではなかろうか。

雑誌係より

雑誌の保存期間について

継続して受入れている雑誌は原則として永久保存をしています。これらの雑誌は一定期間の後，製本・整理されて長期の保存や利用にたえるよう管理されます。しかし雑誌によっては，その利用のされ方やその他の理由で永久保存の必要のないものもあります。

そこでより効率的な運用を期待して，昨年度からこれらの雑誌の扱い方を明確にし，下記のリストの通り保存期間を限定する雑誌を決めました。保存期間のすぎたものは閲覧できませんので注意して下さい。カード目録にも保存期間は明記されています。

保存期間のすぎた雑誌は，他大学図書館との相互協力に提供したり，希望者に配布などの方法で処分します。希望者への配布は図書館内に一定期間展示し自由に持ち帰る方法をとります。年一回程度行いますので時期等については館内の掲示に注意して下さい。なお，今後新たに保存期間を限定する雑誌についてはその都度，本誌上又は掲示等の方法で公表いたします。

誌名	発行ひん度	保存期間
		年
アサヒグラフ	週刊	3
アサヒカメラ	月刊	3
アトリエ	月刊	3
別冊アトリエ	季刊	3
bit	月刊	5
不動産法律セミナー	月刊	5
不動産鑑定	月刊	5
婦人公論	月刊	3
岳人	月刊	3
月刊学習	月刊	3
月刊食堂	月刊	5
月刊ホテル旅館	月刊	5
会計人コース	月刊	5
会計ジャーナル	月刊	5
近代中小企業	月刊	3
月刊金融ジャーナル	月刊	5
経済広報センターだより	月刊	3
近代食堂	月刊	5
基礎ドイツ語	月刊	3
基礎フランス語	月刊	3

誌名	発行ひん度	保存期間
		年
公評	月刊	3
コンピュートピア	月刊	5
音楽の友	月刊	3
PHP	月刊	3
プレジデント	月刊	5
レコード芸術	月刊	3
リーダース・ダイジェスト	月刊	3
陸上競技マガジン	月刊	3
宣伝会議	月刊	5
商業界	月刊	3
週刊ホテル・レストラン	週刊	5
Stereo	月刊	3
旅	月刊	3
山と溪谷	月刊	3
留学と会話	月刊	3
＜新聞＞		
購入和新聞	日刊	1
〃洋新聞	日刊 週刊	2
(縮刷版は永久保存)		

図書館学専攻生作成　**書誌の御案内**

その1

論文やレポートを書くとき，そのテーマに関する参考文献を探し集めることは基本的な作業のひとつです。現在参考図書として，そのための書誌が備えられていますが，それ以外に図書館学専攻生の作った書誌があります。この書誌は専攻生が卒論にかわるものとして，一年間をついやして作成したものです。これらを図書館で借用し，文献探索のツールのひとつとして利用を計っています。ご利用下さい。

なお，今回は昭和53年度～55年度作成のものです。それ以前は本誌No. 46，No. 47を参照して下さい。

図　書　館

アメリカ・アジアにおける図書館研究視察に関する書誌　1960～1978

便覧舎に関する書誌　1872～

千葉県内の公共図書館の歴史に関する書誌および定期刊行物目録　1927～1977

地域文庫活動と図書館づくり住民運動に関する書誌　1960～1979

大学図書館建築に関する書誌　1945～1977

大学図書館・専門図書館の建築施設に関する書誌　1960～1978

学校図書館に関する書誌　1944～1979

学校図書館の資料選択に関する書誌　1958～1979

児童図書の件名目録に関する書誌　1949～1978

児童図書の選択に関する書誌　～1977

神奈川県内公共図書館のサービス・運営に関する書誌　1964～1976

公共図書館の管理に関する官公庁および公立図書館刊行物の書誌　1880～1978

公共図書館を中心とした協力と組織化に関する書誌　1950～1977

公共図書館職員に関する書誌　1965～1979

公民館図書室の諸問題に関する書誌　1955～1977

目録法の動向に関する書誌　1965～1978

名古屋市立図書館の歴史に関する書誌　1955～1977

日本における大学図書館の歴史に関する書誌　1968～1978

日本における公共図書館の管理に関する書誌　1970～1978

日本の公共図書館における地域計画に関する書誌　1960～1980

納本制度に関する書誌　1948～1978

音楽資料の整理・分類に関する書誌　1926～1978

専門図書館における情報サービスに関する書誌　1969～1978

社会学に関する雑誌記事検索のガイド・出版社名による検索と他主題に収録されている論文記事　1945～1978

新聞雑誌（明治30年～昭和20年）にみる茨城県図書館関係記事に関する書誌　1897～1977

書誌：学校図書館における読書指導と利用指導の関係　1955～1978

（以後次号）

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

館内だより（'82.12/13～'83.2/4）

1982年

12月13日　工学部分館長田中平次郎教授逝去

14日　朝霞分館視聴覚アワー

15日　韓国の東草専門大学学長韓相甲氏来館

21～22日　私立大学図書館協会東地区部会研究部研修会（図書館製本）於学習院大学　飯山参加

1983年

1月17日　私立大学図書館協会相互協力委員会東地区作業委員会，於東京経大　村田参加

2月4日　国立国会図書館長と大学図書館長との懇談会，於国立国会図書館　代理出席：山内課長

訂　正

前号の記事を次のとうり訂正いたします。

P.2　左上3行目　TSB→TBS

P.7　右下2行目　ら知れる→知られる

―編集後記―

田中平次郎工学部前分館長のご冥福を，心からお祈り申し上げます。

皆様のご協力・ご支援により，58号から61号まで発行できました。ありがとうございました。

（黒沢，村山，杉野，金子，中村(智)，市村）

新編集委員による次号からも，よろしくお願い致します。

東洋大学図書館ニュース　*ΚΟΣΜΟΣ*　1983　春（No. 61号）　1983年4月1日発行　編集：図書館ニュース編集委員会，発行人：大川信明　発行所：東洋大学図書館　東京都文京区白山5丁目28番20号　Tel.(945)7314番